

# 学校にいけない・いけない子をもつ 親同士がつながる場

解決できる場ではないけれど、それを目指す一端となることを願って開催しています（事務局）

ー令和3年11月に参加された保護者の声をお届けしますー

今回のテーマは「高校不登校」と「つながる場」

## 「高校へ行くとたまに行くでは通用しない。」

中学から不登校になり、高校へ行けば変わるかもという淡い期待を抱いていたという保護者の方々。現実には、状況が変わることはなかったようです。ただ、不登校キャリアは長くなっているの、親の方はどこかどっしりと構えているものの、学年末が見えてくる2学期後半から、気持ちが焦りだすようです。

また、**通信制なら行ける**と思っていても、実際はスクーリングや体育の授業、テストは登校しなくてはならず、それもまたハードルとなっているようです。通信制は3年間という縛りはないものの、クリアすべきことはあるので、子どもさん自身の気持ちがカギとなります。

## 「高校になると、近くの中学とは違って送り迎えが課題」

高校は学区が広がり、学力も関係し、必ずしも近くの高校を選択できるわけではありません。義務教育ではありませんから、もちろん自分で通学することが条件ではあります。ただ、不登校の子どもさんたちには、朝同じ時間に、しかも、電車に乗って通うことは試練とも言えます。欠席が続けば、休学・退学という流れになるので、保護者の方も送り届ける方が多いようです。

そうすると、親御さんのお仕事にも影響してきます。子どもさんの送迎のために、仕事をどうするかという生活基盤に影響する課題にも発展しかねません。だったらどちらかが辞めればいいという単純な課題ではなく、本当に悩ましいです。

また、ある保護者の方は、コロナ禍以降リモートワークを続けておられましたが、そのことで子どもさんに、朝家を出て、夜に戻るというルーティンが伝わりにくいと感じ、通勤する形に戻されたそうです。働き方が多様になる傾向が進み、子どもたちの社会と大人社会が別の構造になると、将来像を描きにくい子どもさんもいるかも知れません。

## 「同じ学校の親御さんとなつなれたら…」

今、この会に参加されている親御さんは、同じ学校の所属者はいません。小・中・高・公立・市立・通信制など、それぞれに状況や対応が違います。学校現場は忙しいので、先生方に多くを求めすぎてもいけないと親御さんたちも分かっています。それなら、スクールソーシャルワーカー(SSW)など別の立場の方とそういった場をつくっていけないかという話も出ました。現状では、各校に常勤のSSWがいるわけではないので、体制的には難しいかも知れません。

また、子どもたちの中には私立の学校に通っている子もいます。残念ながら私立では不登校支援の手立てはないようです。そうすると、親子ともに孤立していきます。

どうすれば、多様な場をつくっていきけるのか。継続して考えていきたいと思います。

不登校・引きこもり研究者  
同朋大学 川乗准教授

ワンポイント  
アドバイス

「永く不登校の状態が続いていると、どうやって登校させたらいいのか・本人に任せたらいいのか？」と、試行錯誤しながら今に至ると思います。

今の状態が一番お互いに心地よいと落ち着いている側面もあるのではないのでしょうか？外部の人をお願いして家庭訪問してもらって回復した例もあります。非常に判断が難しいですが、膠着している状況に新たな力を加えることも1つです。

学校へいけない・いけない子をもつ親同士がつながる場

奇数月の第3日曜日 午後1時30分～3時頃

AGALA2階（箕島本町商店街東入口付近）駐車場有：AGALA東隣

事務局：有田市社会福祉協議会（宮本） TEL 0737-88-2750

mail aridashi.shakyo@gmail.com